

令和 5 年度大槌町総合計画評価委員会

令和 5 年度(令和 4 年度事業)  
**外部評価報告書**

令和 5 年 8 月

大槌町総合計画評価委員会

## 1. はじめに

当委員会の目的は、行政活動の評価について、客観性と透明性を確保する場であるとともに、各委員の専門的知見から、町が実施する各施策が効率的かつ効果的に推進するよう、意見を述べる機関としております。

本報告書は、令和4年度の行政活動について、担当所属による内部評価結果の報告を受け、各評価委員の専門性や経験、見識等から、総合計画の推進状況を確認するとともに、各分野の視点から町の将来のあるべき姿などについて、各委員の意見をまとめたものであります。

当委員会では、令和4年度の目標達成度を全体的に評価できるものと捉えております。

しかしながら、人口減への対応など、難しい課題の解決には、今なお時間を要するものと考えております。

引き続き、「魅力ある人を育て新しい価値を創造し続けるまち大槌」の実現に向け、当委員会の意見を参考に具体的なアクションを起こし、着実な施策の推進を期待しております。

令和5年8月 大槌町総合計画評価委員会  
委員長 後藤 力三

## 2. 令和5年度 大槌町総合計画評価委員会 名簿

	役職名等	氏名
1	大槌町教育委員会教育委員	大 萱 生 都
2	新おおつち漁業協同組合 代表理事組合長	平 野 榮 紀
3	新おおつち魚市場仲買人組合 組合長	芳 賀 政 和
4	花巻農業協同組合 大槌地区担当理事	佐々木 重 吾
5	大槌商工会 会長	後 藤 力 三
6	大槌町社会福祉協議会 会長	徳 田 信 也
7	大槌町観光交流協会 会長	千 代 川 茂
8	釜石医師会 副会長	植 田 俊 郎
9	釜石地区交通安全協会大槌支会 会長	岩 間 利 夫
10	大槌町連合婦人会 会長	古 舘 和 子

### 3. 令和 5 年度 大槌町総合計画評価委員会の概要

#### (1) 評価委員会開催日時等

開催日時	令和 5 年 7 月 21 日（金）午後 3 時～午後 4 時 30 分
開催場所	大槌町役場 3 階 大会議室
出席者	<p>【委員】大萱生 都 委員 芳 賀 政 和 委員 佐々木 重 吾 委員 後 藤 力 三 委員 徳 田 信 也 委員 千代川 茂 委員 岩 間 利 夫 委員 古 舘 和 子 委員</p> <p>【町】町長、副町長、防災対策課長、協働地域づくり推進課長、産業振興課長、学務課大槌型教育推進班長、企画財政課長</p>

#### (2) 評価委員会の視点

評価委員会では、町が実施した実施計画に掲げる、施策を構成する事務事業及び施策評価の結果を基に、行政評価の 4 つの目的、「成果を重視した効率的な行政経営の推進」、「行政の説明責任の向上」、「町民の視点に立った行政サービスの向上」、「職員の意識改革」を踏まえ、意見をまとめて町に報告する。

#### 4. 令和4年度大槌町総合計画実施状況について

##### (1) 令和4年度の取組み・総合計画目標指標の進捗について

### ＜第1章＞「産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり」

#### ●水産業について

海洋環境の変化等の影響により、秋鮭やスルメイカが不漁となっている中、サーモン養殖に力を入れています。世界情勢の影響もあり町内に十分な量が行き渡っていない状況にあるため、養殖に係る関係機関との調整や、稚魚増産の取り組みが必要です。

#### ●農業について

ピーマンなどの園芸作物に取り組む若い就農者が増えてきて、頼もしく感じています。次世代を担う農業者が農地を活用しやすいよう、老朽化した農地の基盤整備が必要です。

#### ●観光業について

観光客入込数はコロナ禍の落ち込みから回復しつつあり、これは合宿誘致やジビエツアー一等での誘客効果であると考えます。

三陸縦貫自動車道の開通により、目的観光の色が強くなってきていると感じています。更なる町の魅力発信により、インバウンド効果に期待します。

### ＜第2章＞「健康でぬくもりのあるまちづくり」

#### ●地域福祉の推進について

民生委員の充足率について、町全体では高い水準となっていますが、充足率は各地区によりバラつきがあるため、更なる取り組みが必要です。

#### ●子育て環境の充実について

前年に引き続き、待機児童数0を達成できており、保育環境の充実を図ってきた効果が出ているものと考えます。

#### ●高齢者支援の推進について

認知症サポーター育成が順調である一方、認知症相談件数は増加傾向にあり、健康寿命の延伸に向けた取り組みが必要です。

### ＜第3章＞「学びがふるさとを育てふるさとが学びを育てるまちづくり」

#### ●学びの推進について

自己肯定感を持った児童生徒の割合が、総合計画策定時から徐々に増加しており、これは一人一人に応じた丁寧な対応や教育の成果であると考えます。学校訪問時に児童生徒の

様子を見ると、落ち着き安定して学習に取り組んでいると感じています。今後は、ICTを活用して個別相談体制のネットワークを構築するなど、時代に添った環境づくりが必要になると考えます。

公民館活動では、各イベントが再開されたことにより参加者数等が大幅な増となり、高く評価できるものと考えます。今後も魅力あるイベントを展開することにより、更なる活発化を期待します。

## **<第4章>「安全性と快適性を高めるまちづくり」**

### **●防災について**

昨今、雨による洪水災害が全国各地で発生しており、町民の防災への意識が高まっているように感じます。そのような中、防災ハザードマップ改定による住民説明会や、意見交換会が活発に行われたことを高く評価すべきと考えます。

消防団員数が目標値から20名ほど不足している中、団員の高齢化も進んでいるため、新たな団員確保に向けた取り組みが必要です。

### **●交通ネットワークについて**

大槌駅乗車人数が目標値に届かない状況が続いているため、町の観光イベントと鉄道イベントを共同するなど、誘客に向けた取り組みが必要と考えます。

## **<第5章>「将来を見据えた持続可能なまちづくり」**

### **●まちづくりの推進について**

地域おこし協力隊の着任による移住者数が増加している中、それらが定住に繋がる取り組みが必要と考えます。

## (2)令和 4 年度の主要事業について

---

### ①大槌町ジビエソーシャルプロジェクト

ジビエサイクルの取り組みが交流人口の拡大に大きく貢献しており、高く評価できると考えます。ジビエサイクルが、雇用を生み出しつつ獣害の減少にも寄与することを期待します。

### ②大槌町地域産業イノベーション事業

社会情勢や環境が変化していく中でも安定した産業が展開できるよう、研究棟と実証棟を活用した商品開発に期待します。

### ③おおつちプロモーション事業

アニメーションを活用した町の魅力発信が、SNSフォロワー数の増加につながっていることから、今後はインバウンド効果に繋がることを期待します。

### ④ふるさと納税特産品贈呈事業

寄附金額が毎年増加していることから、財源の確保と、地域資源を活用した経済の活性化に寄与しているものと考えます。

### ⑤大槌高校魅力化推進事業

魅力化事業は地域の中で活発に展開されており、町内外からの注目度が高まっているように感じます。特に、三陸みらい探求発表会での発表は、大変充実したものでした。これらの取り組みが、大槌高校への入学生増加に繋がることを期待します。

### ⑥震災伝承プラットフォーム構築事業

震災遺構再現ARが完成し、交流人口が増加したように感じています。震災の記録や記憶を子供たちへ伝えていくためにも、防災教育の充実やICTを活用した伝え方など、時代に添ったものを工夫していくことが必要だと考えます。

### ⑦防災対策事業

近年、雨による洪水被害が全国的に毎年のように発生している中、避難路や避難場所の把握等、町民の防災への意識が高まってきているように感じています。町は一時避難の訓練を行っていますが、今後は、避難所での避難所運営訓練も必要と考えます。

大槌町総合計画評価委員会設置要綱

令和2年8月 13 日制定

(設置)

第 1 条 この要綱は、大槌町行政評価実施要綱第6条の規定に基づき、大槌町総合計画評価委員会(以下「委員会」という。)の設置に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 町が実施する行政評価の客観性及び透明性を確保するとともに、効率的かつ効果的な町政運営を推進する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次に関する事項を所掌する。

- (1)町が実施した行政評価結果について、町民の視点で必要な意見を述べる。
- (2)行政評価制度の改善について、意見を述べる。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げるものから、町長が委嘱する。

- (1) 教育委員会から推薦を受けた教育委員
- (2) 漁協団体の代表
- (3) 冷協、加工団体の代表
- (4) 農協団体の代表
- (5) 商工団体の代表
- (6) 学識経験を有する者

2 委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、委嘱の日が属する年度末までとし、再任を妨げないものとする。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、委員長はその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報酬)

第7条 委員には報酬として、一回あたり 3,000 円を支払うものとする。

(費用弁償)

第8条 委員が委員会に出席した場合は、その費用を弁償する。

2 費用弁償の額は、車賃1キロメートル当たり 25 円とする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画財政課において処理する。

(その他)

第 10 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年8月 13 日から施行する。



